

古書のたのしみ（令和五年三月）

土屋 博

一「女子書翰文 上下」岡田起作編書

（金昌堂、明治三十一年刊、彫刻師土山金蔵）

古書價格四百圓也。和裝、赤色秩入り、青色美本。東京女子高等師範教授岡田起作（嘉永五年丹後生まれ）の筆になる草書。

上巻は「年始の文」、「寒中見舞の文」、「初雛を祝ふ文」、「花見を誘ふ文」より「妹を託せる文」まで。下巻は「海外の兄上にする文」より紀貫之「大堰川行幸和歌序」（「あはれわが君の御代、なが月のこゝぬかと昨日いひて、のこれる菊見たまはん」云々）まで。



二「源氏物語 上下」摘

（國民文庫刊行會、明治四十三、四四年刊、非賣品、上卷八八〇頁＋下卷九一六頁）

古書價格各五百圓也。天金。校訂者は、本居豊穎（とよかい）（一八三四年生まれ、一九一三年歿。宣長の義理の曾孫。）、古谷知新。對話消息等の部分を地の文と區別すれば読み易し。全ルビ付き。國民文庫版の源氏物語並びに次に掲ぐる萬葉集略解は、永年探し求め

しものなれば、神保町春の古本まつり（さくらみちフェスティバル）の最大の収穫品といふべし。
国民文庫版の美しき體裁、重量感溢るる手触りは格別なり。状態もこの時代のものとしては大いに満足すべき水準なり。昭和學院短期大學附属図書館の除籍本なり。
ちなみに国民文庫刊行會の主宰者は、鶴田久作（一八七四年生まれ、昭和三十年歿。博文館を経て神田小川町に玄黄社を創業。）なり。



三「萬葉集略解 上下」揃

（国民文庫刊行會、明治四十三、四年刊、非賣品、上巻八八〇頁＋下巻九一六頁）
古書價格各五百圓也。校訂者は古谷知新。橋千蔭（一七三五年生れ、一八〇八年歿）は加藤千蔭とも云ひ、賀茂真淵に師事す。國學者、歌人。略解の著述を思ひ立ちたるは、寛政の改革後百日の蟄居中のことなりき。略解は簡便なる入門書として廣く流布され、萬人必携のものなりと信ず。



四「萬葉集略解 下帙」橘千蔭大人

(修學堂發兌、明治四十年代頃か)

古書價格三百圓也。第四編、第五編、第六編、總目錄(阿部、伊部、宇部、意部、加部より和部、惠部、袁部まで題の頭字の五十韻順)の四冊。帙入り。本は黄色、帙は薄茶色。



五「靖獻遺言 全」

(文會堂書店、大正七年九版、金一圓八拾錢、六七六頁)

古書價格五百圓也。ポケットサイズの愛すべき一冊、初版は明治四十三年なり。編者浅見綱齋、一六五二年生まれ、一七二二年歿。近江出身、山崎闇齋門下。跋に曰く、「自ら靖んじ自ら先王に獻ずる者、萬古一心にして彼此間無きこと此の如し。然らば則ち後の遺言を読む者、其心を験する所以、亦た豈に遠く求めんや」と。大義を奉じ安んじて大節を致したる者の遺したる不朽の名言なり。

目次は、離騷懷沙賦(屈原)、出師表(諸葛孔明)、讀史述夷齊草(陶潜)、移蔡帖(顏真卿)、衣帶中贊(文天祥)、初到建寧賦詩(謝枋得)、燕歌行(劉因)、絶命辭(方孝孺)。八名の評傳の形をとる。

明治維新の勤皇の志士たち、更には神風特攻隊員の必讀書と稱せらる。



六「國譯漢文大成 四書・孝經」

(國民文庫刊行會、大正十二年四月三版、非賣品)

古書價格五百圓也。初版は大正十一年。天金。四書解題、論語註、孟子註は服部宇之吉。大學、中庸註は小牧昌業。孝經註は山口察常。その後關東大震災により紙型消失せらるれば、今となりては貴重なる美本なり。



七「國譯漢文大成 春秋左史傳 上」

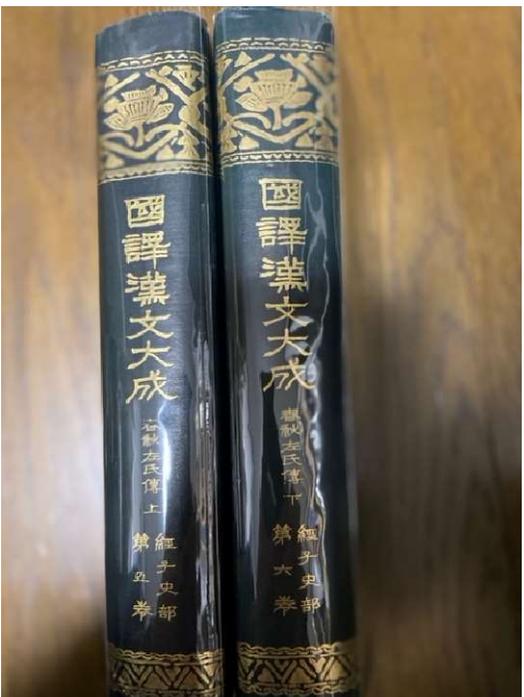
(國民文庫刊行會、大正十三年四版、非賣品、本文四八〇頁+原文一六六頁)

「國譯漢文大成 春秋左史傳 下」

(國民文庫刊行會、大正十二年三版、非賣品、本文五五二頁+原文一八一頁)

古書價格各三百圓也。初版は大正九年及び十年。天金。文學博士兒島獻吉郎譯註。

孔子、三千の弟子に對する教育上の必要に迫られ、他の著作については述べたるも、ひとり「春秋」については筆すべきは筆し、削るべきは削れり。福澤諭吉は、「左傳」を得意とし、十一たび読み返し、面白きところは暗記したる由。



八「萬葉集代匠記 第一輯、第三輯、第四輯」

（早稲田大學出版部、大正十四年刊、全六冊ならば正價金參拾圓）

古書價格各二百圓也。天金。文學博士木村正辭校訂。

著者の契沖阿闍梨は、一六四〇年生れ、一七〇一年歿。眞言宗の僧、國學者。

紙質體裁申し分無き、價值ある三冊を僅か六百圓にて購入し得たるは奇蹟といふ外無し。

本の状態も頗る良し。萬葉集の卷一より卷四まで及び卷十より卷二十までを網羅す。



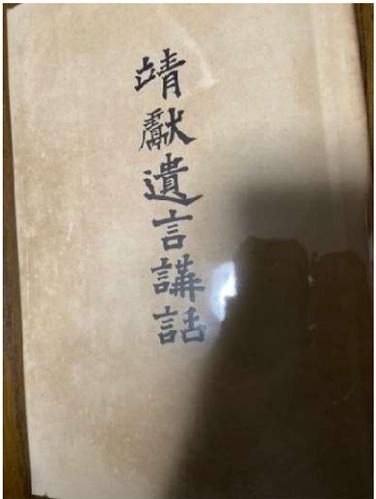
九「靖獻遺言講話」加藤咄堂著

（丙午出版社、昭和三年刊、定價金貳圓、二八九頁）

古書價格八百圓也。加藤咄堂は、一八七〇年生まれ、一九四九年歿。佛敎學者。本書は年

少子弟のために講述したるを筆記したるものにて通俗平易を宗とす。本書にては、屈原、

諸葛孔明、陶淵明、顏眞卿、文天祥の五家のみを扱ふ。



十「女子國文大綱 卷三、卷四、卷五、卷六、卷七」平林治徳編
(立川書店、昭和五年刊、各定價金六十九錢、本文一八七十一八〇十一八四十二八六十一
九三頁)

古書價格各百十圓也。高等女學校用の文部省檢定濟教科書なり。

表紙の題箋は藤原行平筆と稱せらるる御物倭漢朗詠集より拾字せらる。

卷三は、大阪朝日新聞「孤島の行幸」より坪内逍遙「幼な正行」まで。

卷四は、溝口白羊「明治神宮」より島崎藤村「文章雜話」まで。

卷五は、明治天皇御製よりシェークスピア原作逍遙譯「ベニスの商人」まで。

卷六は、北原白秋「御大典ほぎ歌」より謡曲「七騎落」まで。

卷七は、芳賀矢一「日本趣味」より鴨長明「方丈記抄」まで。



十一「校訂増註 徒然草諸抄大成」吉澤義則撰

(立命館出版部、昭和六年刊、定價五圓參拾錢、八九五頁)

古書價格八百圓也。例言によらば、本書は浅香久敬(一六五七年生まれ、一七二七年歿)編の「徒然草諸抄大成」を復刻し、明治以後の評釋によつてその缺陷を補足完成したるものなり。先人の徒然草解釈を集大成したる最良の參考書といふべし。片手にて持つにはやや重けれども。



十二「新撰諸子鈔 全」大阪高等學校教授文學博士秋月胤繼編

(白林社、昭和八年刊、定價金壹圓、一五七頁)

古書價格三百圓也。孫子より始計、作戰、謀攻、軍形、兵勢、虛實。ほかに、墨子、莊子、荀子、韓非子を収録す。



十三「國語便覧 温故抄」星野書店編輯部編

(星野書店、昭和十二年刊、定價金貳拾五錢、本文四二頁)

古書價格百二十圓也。有職故實に關する色刷、文法表、文學年表など、國語科の參考書として編纂せらる。たとへば、平安朝女子正裝の梅がさね、山吹、かへでもみぢの色の違ひぶりなど。

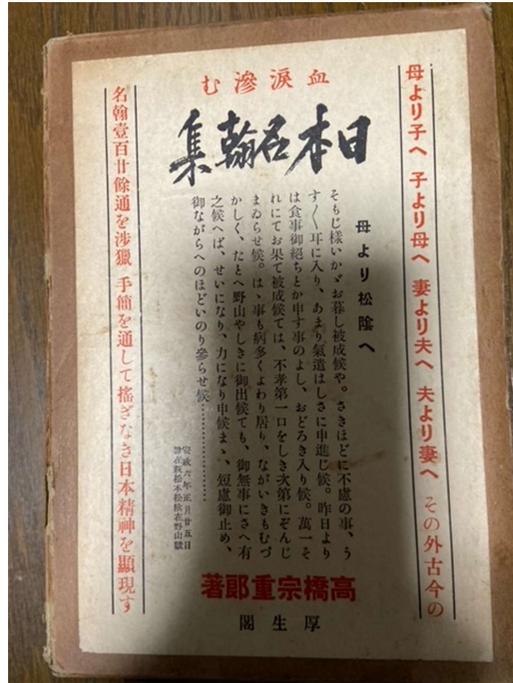


十四「血涙滲む 日本名翰集」高橋宗重郎著

(厚生閣、昭和十四年刊、定價一圓六拾錢、二六七頁)

古書價格五百圓也。自序に曰く、「我等の祖先の理想を如實に知るには其の遺文に如くもなく、特に書翰は率直に之を示すものなりとの信念の下に、我等の特に崇拜措く能はざるところの偉人、傑士、忠臣、義士、烈女、名婦の書翰若干を蒐めて遍く江湖の精讀を希ひ、以て心身鍛錬と子女教養の参考に資せんとする所以である」と。

母杉瀧より吉田松陰への手紙より、「一寸申參らせ候。そもじ様いかゞ御くらし被成候や」と。母勝子が本居宣長に送りし手紙より、「人々そもじ事ほめ居申候へば、此所取りそこなひ候へば親の恥申す様はなく候、大不幸と存じ候」と。「そもじ」とは、お前、そなたを指す女性言葉。



十五「國譯漢文大成 四書・孝經」

(國民文庫刊行會、昭和十八年八版、金五圓拾參錢)

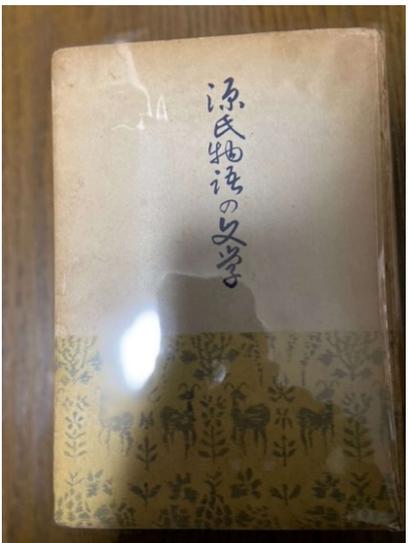
古書價格千圓也。大震災後の改版。戦時中のもの故、紙質は大正版に比してかなり劣れり。公田連太郎の増補あり。



十六「源氏物語の文學」久松潜一・麻生磯次・池田龜鑑・萩原浅男・吉原敏雄・竹下數馬 共編

(三省堂、昭和二十八年再版、定價二百圓、二五六頁)

古書價格五百圓也。初版は昭和二十六年。凡例によらば、實際の執筆擔當は池田龜鑑(一八九六年生れ、一九五六年歿、師範學校經由の傍系出身のため、助教授時代が二十一年間と永く、東大教授となれたるは、一九五五年五十八歳の時なりき。その翌年には逝去。)一人のみの由。大學の一般教育向けテキストとして編まれ、桐壺の箇所にて白樂天「長恨歌」、平家物語「嵯峨野の奥」を紹介、帚木の箇所にては大鏡、夕顔にては雨月物語を紹介するなど、日本文學史の副讀本としても役立つ、素晴らしき仕上りの内容なり。



十七「春秋左氏傳」竹内照夫譯

(平凡社、昭和三十三年刊、定價五百五拾圓、四一八頁)

古書價格三百圓也。中國古典文學全集の第三卷なり。原文無く現代語譯のみ。



十八「史記」田中謙二、一海知義著

(春秋戰國篇、楚漢篇、漢武篇の三冊)

(朝日新聞社、昭和四十一年、二年刊、定價各八百五拾圓、本文三八二頁+四六九頁+四〇七頁)

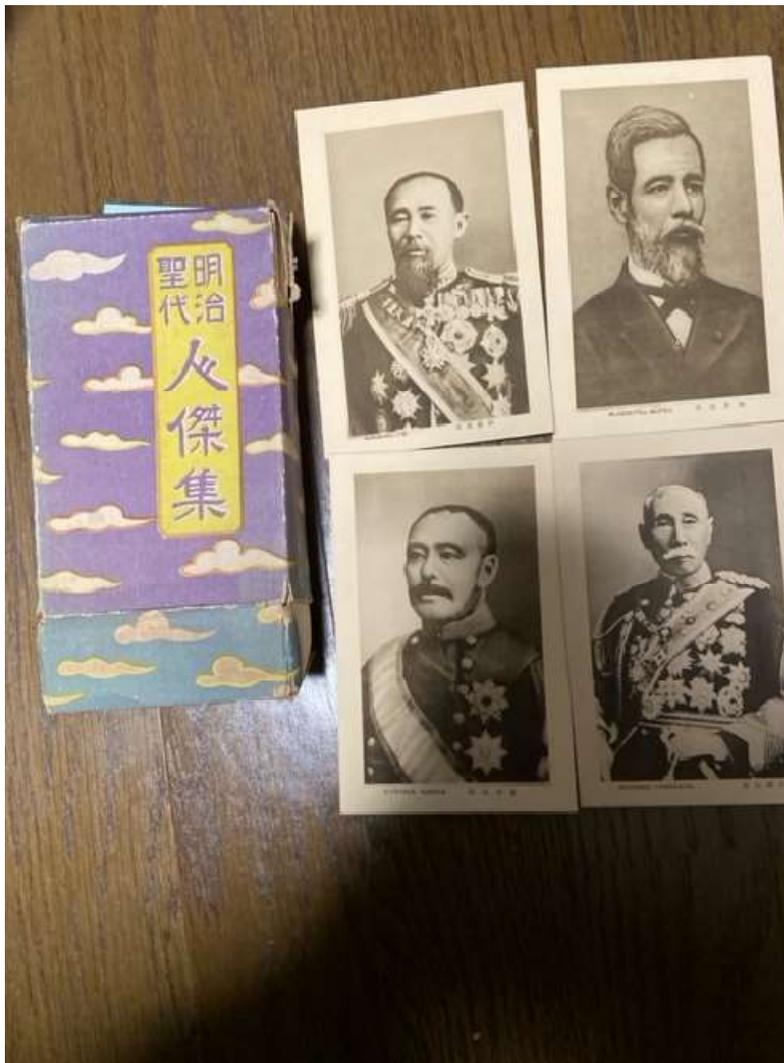
古書價格各三百圓也。新訂中國古典選シリーズの十、十一、十二卷。著者の田中謙二、一海知義はともに京大文學部卒。原文、書き下し、現代語譯付き。



十九「明治聖代 人傑集」

明治の人傑の寫眞絵葉書九十枚のセットなり。大久保利通、木戸孝允、勝海舟、乃木希典、東郷平八郎など、皆よき表情にて、暫く眺むるに足り、味はひ深し。

中古價格千圓也。ネットにては、十二枚のみのセットにても一萬四千圓程度の値の付く、魅力溢るるものなり。



(令和五年四月三日受附)